

事業番号

0080

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	大学スポーツ研究活動資源活用事業	担当部署庁	スポーツ・青少年局	作成責任者				
事業開始・終了(予定) 年度	平成23年度	担当課室	競技スポーツ課	競技スポーツ課長 芦立 訓				
会計区分	一般会計	施策名	ⅩⅡ-3 我が国の国際競技力の向上					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計画、 通知等	スポーツ振興基本計画 (平成12年9月13日策定、平成18年9月21日改定) スポーツ立国戦略 (平成22年8月26日策定)					
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進。 また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	—	—	—	50	100	
		補正予算	—	—	—			
		繰越し等	—	—	—			
		計	—	—	—	50	100	
	執行額		—	—	—			
	執行率(%)		—	—	—			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (24年度)
	オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル獲得数		成果実績	メダル 獲得数				夏季:37 冬季:10
			達成度	個				
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進した大学数		活動実績 (当初見込み)	ヶ所			()	(5)
単位当たり コスト	1大学当たりのコスト(9,997,600円/1ヶ所)		算出根拠	単位当たりコスト＝平成23年度大学スポーツ研究活動資源活用事業 予算額(49,988,000円)／大学数(5大学)				
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費 目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	スポーツ振興事業委託 費等	50百万円	100百万円	委託箇所数の増				
	計	50百万円	100百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・本事業は、昨年8月に文部科学省が策定した「スポーツ立国戦略」における、「大学を活用した分散型強化・研究活動拠点ネットワークの構築」に資する事業である。</p> <p>・企画競争による公募を行い、提出された事業計画書の精査を行うことで、適切な予算の執行に努めている。</p> <p>・公募期間終了後の大学からの問い合わせもあり、より多くの大学が競争に参加できるよう公募期間の見直し等を行う必要がある。</p>		
	<p>本事業は、執行面における課題もなく、事業の成果目標も立てられていることから、適切な事業と認められる。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

※当該資金の流れは、予算積算上において想定される資金の流れを記載したものであり、実際の資金の流れとは異なる可能性がある。

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

文部科学省 50百万円

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。



【公募・委託】

A. 大学スポーツ研究活動資源活用事業:50百万円
大学(全5大学)

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進する。また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及する。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。費目
 と使途の双方で
 実情が分かる
 ように記載)

A.大学			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
賃金	アシスタントスタッフ賃金	4			
設備備品費	心拍・乳酸値測定器、映像機器等研究関係備品	4			
旅費	ワークショップ出席旅費、合宿帯同旅費、海外調査研究旅費	1			
その他	研究関係消耗品費、通賃運搬費	1			
計		10	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0